



病院ホームページ



Facebook



耳鼻咽喉科 内視鏡を活用した鼻の手術の様子

**【特集1】 診療科クローズアップ 耳鼻咽喉科
嚥下・ボイスセンター／鼻・副鼻腔センター**

**【特集2】 循環器内科
治療が必要か“入院せずに判断できる”検査を導入しました**

Vol.66

基本理念：「わたしたちは、いのちと健康、尊厳を守るため、より良い医療を目指します」

基本方針：「患者さん中心の医療」「良質な医療の提供」「地域医療機関との連携」「救急医療の充実」
「災害時の救護活動」「原子力災害対応機能の充実」「健全な経営の維持」



「食べる」「話す」「鼻から楽に息を吸う」喜びを再び— 専門チームが寄り添う、のどと鼻の専門治療

「最近食事のたびにムセる」「声が出しにくくて仕事に支障がある」「鼻が詰まって夜も眠れない」……。こうした悩みは、年齢のせいだと諦めてしまったり、どこに相談すべきか迷ったりしがちです。

当院では、**声と飲み込みの異常を専門的に治療する「嚥下・ボイスセンター」、鼻の異常を専門的に治療する「鼻・副鼻腔センター」**を開設しています。耳鼻咽喉科専門医、言語聴覚士、摂食嚥下障害看護認定看護師、管理栄養士などの専門職が連携し、患者さん中心のチーム医療を行っています。

患者さんごとに状態を見極め、一人一人の生活背景に寄り添った、**オーダーメイドな治療**を提供することをモットーにしております。



多田 靖宏

耳鼻咽喉科部主任部長
嚥下・ボイスセンター長
鼻・副鼻腔センター長

えんげ 嚥下・ボイスセンター



嚥下・ボイスセンター
ホームページ ▶



◇ 嚥下障害

「嚥下」とは、食事などを口から胃に送り込む一連の動作を指します。通常であれば、食べ物を咀嚼した後、ほぼ無意識に飲み込むことができますが、嚥下障害が生じると、上手に飲み込めずムセたり（誤嚥）、食べた物がのどにひっかかったり（通過障害）します。原因は神経疾患、腫瘍性疾患、膠原病、老化など様々です。

検査として、内視鏡を使ってのどを観察しながら着色水などを飲み込む嚥下内視鏡検査や、バリウムを飲み込んで通過状態を確認する嚥下造影検査などを行い、原因を精査します。

嚥下障害の原因が判明した後、リハビリや手術で対応します。リハビリでは、言語聴覚士が中心となり、病状に応じた適切な手法で実施します。入院中のみならず、外来通院での訓練も行っております。手術は、「嚥下機能改善手術」と「誤嚥防止手術」に分けられます。原因疾患や飲み込みの能力、家庭環境、患者さんの食に対する希望などを考慮して選択します。「口から十分な食事を摂れるようにする」ことを目標にします。

◇ 音声障害

音声障害とは、声がかすれる（嘎声）、声が出しにくい、大きな声が出ない、のどに違和感があるなどの状態を指します。原因は声帯ポリープ（イボのような病変）、声帯結節（タコのような病変）、声帯萎縮など様々です。

専門医と言語聴覚士が連携して、問診をとり、喉頭内視鏡検査、発声機能検査、画像検査などから原因を診断し、適切な訓練や治療を選択します。

当センターでは、全身麻酔での手術のほか、疾患や病状によっては、局所麻酔での1泊入院手術も実施しております。患者さんが座った状態で、鼻から内視鏡を挿入して声帯病変を観察しつつ、口から器具を挿入して直接病変を切除したり、首から針を刺して直接声帯に薬を注射する手法です。お仕事でお忙しい方や小さなお子様がいる長期入院が難しい方などにお勧めです。また、専門医と言語聴覚士が連携しての音声リハビリも行っております。

び ぶくびくろ 鼻・副鼻腔センター



鼻・副鼻腔センター
ホームページ



アレルギー性鼻炎（花粉症）や慢性副鼻腔炎（蓄膿症）、鼻中隔湾曲症、嗅覚障害、鼻外傷、鼻奇形など、幅広い鼻と副鼻腔（鼻腔周囲の骨の中にある空洞）の疾患に対して専門的な検査、治療、手術を行っています。

まずは電子スコープを用いて鼻腔内を観察します。患者さんも自身の鼻の状態を医師と同じ目線で確認できるようにしています。続いて鼻の通りを調べる鼻腔通気度検査、臭いの障害を調べる嗅覚検査、アレルギーの血液検査、副鼻腔CTやMRIなどを活用して、鼻の構造の問題点や炎症の有無などを確認したうえで、治療を検討していきます。

— どのような疾患の治療を行っているの？ 治療の一部をご紹介します —

◇ 慢性副鼻腔炎（蓄膿症）

慢性副鼻腔炎は、鼻づまりや頭痛、嫌な臭いを伴う鼻水が生じるなど、日常生活を大きく妨げます。

まずは薬による保存的治療から始めますが、改善が見られない場合には、内視鏡を活用した全身麻酔下での手術を行います。かつて鼻の手術といえば「術後のガーゼを抜く時が痛い」というイメージがありましたが、当センターではガーゼに独自の工夫を施すことで、取り除くときの痛みを軽減させております。

◇ アレルギー性鼻炎（花粉症）

通年性・季節性・混合性があり、通年性アレルギーの原因としてハウスダストやダニが、季節性アレルギーの原因としてスギ花粉が多いといわれています。水っぽい鼻水、鼻づまり、くしゃみ、目のかゆみが発生します。

何がアレルギーの原因かは血液検査で診断することができます。治療は重症度により判断しており、初めは抗アレルギー薬の内服やステロイド点鼻薬が中心になります。症状の改善が期待される治療法として、「舌下免疫療法」があります。3年ほどアレルギー物質を含む薬をあえて服用し、身体を慣れさせて症状自体を改善させるもので、当センターではスギ花粉とダニに対する治療を行っています。また、症状や重症度によっては手術治療も選択肢に入ります。軽症の場合は短期入院手術、もしくは日帰りの局所麻酔手術を行っています。

◇ 鼻中隔湾曲症

鼻の左右を仕切る壁（鼻中隔）が曲がっているこの疾患は、日本人の約8割に見られるといわれています。鼻づまりが左右交互に起こることが主な症状です。この疾患は、手術による矯正が根本的な解決策です。

鼻の入り口付近が強く曲がっている症例は、従来術式では矯正困難とされてきましたが、当センターでは、「鼻の先端から切開する手法」を導入しています。これにより、従来は矯正困難とされていた症例であっても、十分な矯正効果が確認されています。普段から鼻づまりのせいで口呼吸になりがちの方や、夜間のいびきが気になる方には、一度診察を受けていただくことをおすすめいたします。

そのほか、耳鼻咽喉科では下記の症状に対応しています
このような症状がありましたらお気軽にご相談ください

耳	耳鳴り、めまい、難聴、顔面麻痺 など
鼻	鼻づまり、鼻水、鼻からの出血、嗅覚異常 など
咽頭	のどの痛み、飲み込みにくさ、味覚異常、いびき など
喉頭	声のかすれ、咳、呼吸苦、ムセ など
首	痛み、腫れ、しこり、発熱 など



—救急隊×病院— より良い救急医療を目指した『勉強会』を開催！

1/23(金)、福島市・伊達地方消防の救急隊員と当院の医療スタッフが合同で、救急医療に関する勉強会を開催しました。

本勉強会は、『**救急医療の知識をアップデートし、より質の高い救急医療を実現すること**』、『**救急隊と病院間で顔の見える関係を築き、円滑な医療の提供につなげること**』を目的に、毎年実施しています。

当院の医師による講義のほか、2025年に福島市消防本部と当院が共同で全3回実施した「救急車同乗実習」に参加した外来看護師による報告、救急隊員が対応した患者の症例検討を行いました。



救急隊員：約30名
当院スタッフ：約20名が参加



消化器内科医師による救急現場での消化器疾患への対応に関する講義



外来看護師による救急車同乗実習の参加報告



救急隊員の症例報告に対し医師がフィードバック

暮らしに役立つ!!

みんなの健康メモ

今回は
検査部

今回のトピックス：検査前に食事をしてはいけないのはなぜ？

外来受診や健康診断を控えたある日—スタッフから「〇〇の検査を受けるので、当日は食事をしないで来てくださいね」という指示が……。 「ちょっとくらい食べても平気でしょ？」と思ったことはありませんか？実は、色々理由があるんです。

採血検査

食事をすると… 栄養成分が血液中に混入します

⇒血糖値や中性脂肪などの数値が一時的に上昇してしまうため正しい数値を測定できません

腹部エコー(超音波)検査

食事をすると… 発生したガスがお腹に溜まります

⇒ガスで画像が不鮮明になるほか、胆のうが萎縮して見えにくくなります

ピロリ菌の呼気検査

食事をすると… 胃の粘膜が胃粘液で覆われます

⇒検査薬の効果が上手く出ないためピロリ菌を検出できません

※最低4時間は食事をしないでください

- ◆ 食事をしない時間は10～12時間が一般的です
- ◆ 飲み物にも気をつけましょう(基本的に水)
- ※個別に指示があればそちらに従ってください

食事を控える検査は他にもあります。皆さんの身体の状態を正しく把握するため、少しの間食事のお休みにご協力をお願いします。

12/25

クリスマスコンサートを開催

〈福島の病院にピアノと音楽を届けたい〉実行委員会様によるコンサートが、今年も開催されました。笑顔に包まれた、素敵なクリスマスになりました！

会場に響き渡る
バリトンの
奥ゆかしい歌声

チェロとピアノの
温かく優しい
ハーモニー

新任医師紹介

消化器内科

出身大学

福島県立医科大学
平成30年卒

専門とするもの

大腸疾患

認定医・専門医

日本内科学会 内科専門医
日本消化器学会 消化器専門医
日本消化器病学会 消化器内臓専門医

メッセージ

個人のニーズにあわせて丁寧な診療を心掛けます。

外科

出身大学

福島県立医科大学
平成31年卒

専門とするもの

肝胆臓・移植外科

認定医・専門医

日本外科学会 外科専門医

メッセージ

よりよく生きるとはどういうことか、一緒に考えていけたらと思っています。

福島赤十字病院 登録医師・医療機関のご紹介

*医療連携にご協力いただいている医療機関を順次ご紹介いたします。

医療法人みやけ歯科医科ケア 笹木野みやけ内科外科

■院長 三宅 高史 先生

～三宅先生からのメッセージ～



2020年12月に父・三宅弘章から医院を継承しました。笹木野で内科、外科、整形外科の診療をしています。福島赤十字病院の先生方、職員の皆様には平素より多岐にわたり大変お

世話になっております。地域のかかりつけ医の他、産業医、内科学校医(吾妻中、水保小、佐原小)、福島市少年鑑別所矯正嘱託医をしています。

福島市も地域住民の高齢化に伴い通院困難な患者様が増えております。訪問診療や往診、ターミナルケアの需要に応えるためのクリニックの体制作り、また地域医療連携室や地域包括支援センターの皆様との協力、福島赤十字病院の皆様をはじめとした地域の中核医療機関との連携に今後も尽力して参りたいと思います。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



クリニック
ホームページ▶



《診療科》

内科、外科、整形外科、
呼吸器内科、消化器内科、
リハビリテーション科

《住所》

〒960-8057
福島市笹木野字中小屋16-2

《電話》

024-559-1511

《休診日》

日曜・祝日、木曜・土曜の午後

※木曜・土曜⇒診療 9:00~12:30
(受付8:30~12:15)

	診療時間 (受付時間)	月	火	水	木	金	土	日
午前	9:00~12:00 (8:30~11:45)	○	○	○	※	○	※	×
午後	15:00~18:00 (14:30~17:45)	○	○	○	×	○	×	×

曾根田駅前クリニック

■院長 中島 大 先生

～中島先生からのメッセージ～



曾根田駅前クリニックは、内科・漢方内科・放射線科を標榜し、地域の皆さまが安心して相談できる身近な医療機関を目指しています。

一般内科診療の西洋医学の観点に加え、漢方医学の視点を取り入れ、一人ひとりに寄り添った診療を大切にしています。必要に応じて福島赤十字病院などの高度医療機関と連携し、適切な医療へつなぐ体制を整えています。今後も地域に根ざした医療を通じて、皆さまの健康を支えてまいります。



クリニック
ホームページ▶



《診療科》

内科、漢方内科、放射線科

《住所》

〒960-8051
福島市曾根田町1-18
MAX ふくしま5階

《電話》

024-597-8595

《休診日》

水曜・日曜・祝日

※特別予約診療

	受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午前	9:30~12:30	○	○	×	○	○	○	×
午後	14:30~18:00	○	○	×	○	○	※	×
	18:00~18:30	×	○	×	×	○	×	×

*火曜・金曜は18:30まで受付 *予約不要
*順番待ちシステム「Air ウェイト」を導入しています

放っておけない心臓の血流トラブル

心臓は、血液を全身に送り出しているとても大切な臓器です。心臓自体を動かすための血液を送る心臓表面の血管を冠動脈といいます。この冠動脈がコレステロールなどで狭く細くなり、血流が阻害される病気が**狭心症**、完全に詰まって心臓への血流が途絶えてしまう病気が**心筋梗塞**です。

冠動脈の狭さ・細さ（狭窄）の状態を見るために行われるのが、**冠動脈CT検査**です。画像を撮影し、狭窄の程度を見て、治療すべきかどうかを判断します。

しかし、狭窄の程度によっては、CT画像のみでは治療が必要かどうかの判断が難しいケースがあります。この場合、患者さんに入院してもらい、“カテーテル”と呼ばれる細い管を血管に入れて、冠動脈の狭窄および血流を詳しく見る検査を行うのが、従来の方法でした。

！このような症状に要注意！



血管が狭くなる 狭心症

胸の圧迫感・重苦しさ
胸の痛み
冷や汗、吐き気・嘔吐、息苦しさ、動悸・めまいなど

※痛みが背中や肩、腕、首などに広がることもある
※運動時に症状が出ることが多い

血管が詰まる 心筋梗塞

強い胸の圧迫感・痛みが30分以上続く
冷や汗、吐き気・嘔吐、息苦しさ、動悸・めまいなど

※痛みが背中や肩、腕、首などに広がることもある

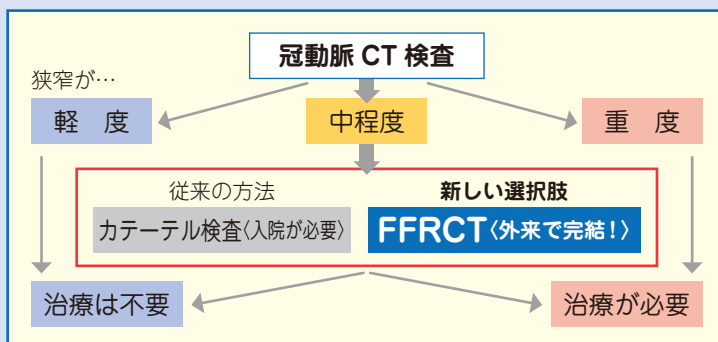
数時間以内に治療しないと命に関わることも

カテーテル検査をしなくても詳しく評価可能！ CT画像から血流を予測する FFRCT をご紹介します

FFRCTとは、**冠動脈CT画像から冠動脈の血液の通りやすさ（血流）を評価してくれる検査**です。

すでに撮影したCT画像を解析機関に送るだけで、スーパーコンピューターが、その冠動脈の狭窄を「治療すべきか？」評価します。

入院してのカテーテル検査をする必要がなく、患者さんに身体的な負担が一切ないのが大きな特徴です。



－ FFRCTって何がいの？ 3つのメリット－

1

入院する必要がない

検査が外来でのCT撮影だけで完結します
追加の身体的・時間的負担がありません

2

身体への負担がない

カテーテルの挿入が不要なため
身体にやさしい検査です

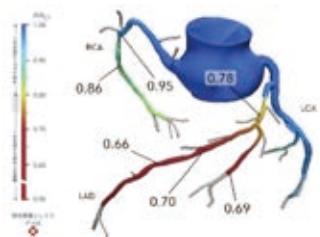
3

わかりやすい結果で 病識が深まる

カラーレポートでどこが問題なのか
わかりやすく表示されます

解析の流れ

- 冠動脈CT画像を解析機関に送信
- スーパーコンピューターが血流を解析
- 数日でレポートが完成
⇒冠動脈の血流が
数値と色でわかりやすく可視化されます



〈レポートの一部：予測される血流〉
赤い部分で血流が妨げられています

？よくあるご質問？

- Q1.** 保険は適用されますか？
A1. 保険適用ですのでご安心ください。
費用は診察時にご案内します。
*冠動脈CT検査費用は別途かかります
- Q2.** 誰でも受けられますか？
A2. 症状やCT画像の状態によって難しい場合があります。
医師が適応かどうかを適切に判断します。

ご不明な点は循環器内科の医師にご相談ください